



10月号



「世界食料デー(10月16日)」は国連が定めた世界共通の記念日です。世界中の人々が協力しあい、最も重要な基本的人権のひとつである「食料への権利」を実現し、飢餓(食べる物がなくて病気になったり、死んでしまったりすること)を解決することを目的に制定されました。「世界食料デー」をきっかけにわたしたちも「食べ物の大切さ」「食べ物をムダにしない」など自分たちにできることを考えてみませんか？

たくさん捨てているわたしたち

世界では毎年、食用に生産されている食料の3分の1にあたる13億トン(※1)が捨てられています。日本では、「食べ残し」や「賞味期限切れ」など消費段階で、捨てられる食べ物が多いです。これは、考えて購入したり、調理すれば捨てられずにすんだかもしれない食料です。

一方で、開発途上国では、同じ時期に農作物がたくさん収穫できても「適切に保管できない」「加工するための技術が十分でない」「運ぶための手段やガソリンを買うお金がない」などの理由で、必要な人に届く前にムダになっています。

海外に頼るわたしたちの食

日本の食料自給率は38%(カロリーベース)(※2)。6割の食料を海外からの輸入に頼っています。先進国では、国民が食べることに困らないように十分な食料を自分の国で生産し、さらには輸出をしている国が多い中でめずらしいことです。それにも関わらず、日本ではまだ食べられるものを大量に捨てています。

(※1)国連食糧農業機関(FAO)(2011年) (※2)農林水産省(2020年) 「みんなで食べる幸せを」HPから

食料自給率が低い日本だからこそ食べ物は大切に！

